

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-107983

(43)Date of publication of application : 11.04.2003

(51)Int.Cl. G09B 7/00
G06T 1/00

(21)Application number : 2001-296888

(71)Applicant : TOKAI DENTSU:KK

(22)Date of filing : 27.09.2001

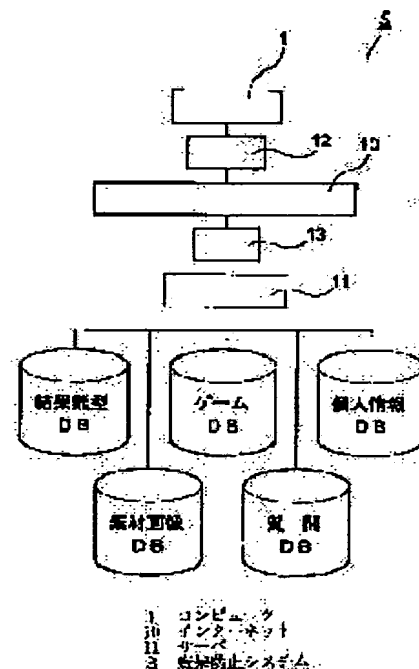
(72)Inventor : SUGIYAMA TETSURO
FUJII KAZUHIKO
SHUDO YASUZO
OKI MAKOTO

(54) DEMENTIA PREVENTING SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To develop a new dementia preventing system aiming at enabling selection of a right brain stimulating means suitable for the degree of dementia of each user and at contriving prevention and improvement especially of disorientation.

SOLUTION: In the dementia preventing system, a computer 1 presents a question to a user in characters or in a combination of characters and a picture relating to the question, and the user inputs the answer to the question. The computer 1 returns a response corresponding to the answer of the user in a picture or in a combination a picture and characters. Thus, by carrying out such an interactive program, the right brain of the user is visually stimulated and rehabilitation for dementia is performed.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 23.05.2003

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 28.02.2006

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-107983
(P2003-107983A)

(43) 公開日 平成15年4月11日 (2003.4.11)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
G 0 9 B 7/00		G 0 9 B 7/00	2 C 0 2 8
G 0 6 T 1/00		G 0 6 T 1/00	A 5 B 0 5 0

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2001-296888 (P2001-296888)

(22) 出願日 平成13年9月27日 (2001.9.27)

(71) 出願人 501379557

株式会社東海電通
静岡県沼津市松長519-1

(72) 発明者 杉山 哲朗

静岡県沼津市松長519-1 株式会社東海
電通内

(72) 発明者 藤井 一彦

静岡県沼津市松長519-1 株式会社東海
電通内

(74) 代理人 100086438

弁理士 東山 喬彦

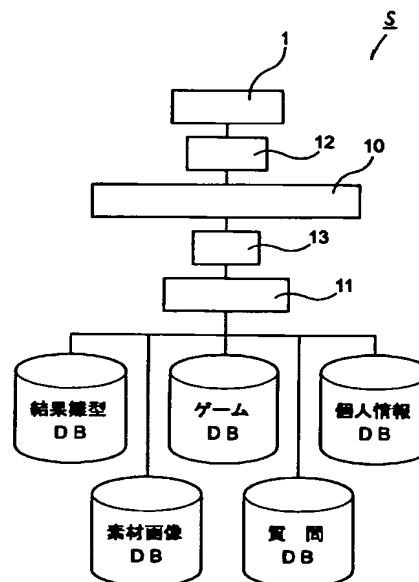
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 痴呆防止システム

(57) 【要約】

【課題】 利用者毎の痴呆の程度に適切な右脳刺激手段を選択することができるとともに、特に見当識障害の予防・改善を図ることを目的とした新規な痴呆防止システムの開発を技術課題とした。

【解決手段】 コンピュータ1が、質問を文字によって、あるいは文字及びこの質問の内容に関連する画像との組み合わせによって利用者に示し、一方、利用者は、この質問に対する回答を入力するものであり、コンピュータ1が、利用者の回答に対応した返答を、画像または画像と文字との組み合わせにより利用者に示すといった対話プログラムを実行することにより、視覚を通じて利用者の右脳を刺激し、痴呆症のリハビリテーションを行うようにしたことを特徴として成る。



1 コンピュータ
10 インターネット
11 サーバ
S 痴呆防止システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 表示装置と、入力装置と、記憶装置と、処理装置とを具備して成るコンピュータを用い、前記表示装置上に表示された指示に従って利用者が入力を行うことにより痴呆症のリハビリテーションメニューをこなしてゆくシステムにおいて、前記記憶装置には、個人情報と、質問と、素材画像と、結果雛型とを記憶するものであり、前記コンピュータは、質問を文字によって、あるいは文字及びこの質問の内容に関連する画像との組み合わせによって利用者に示し、一方、利用者は、この質問に対する回答を入力するものであり、前記コンピュータが、利用者の回答に対応した返答を、画像または画像と文字との組み合わせにより利用者に示すといった対話プログラムを実行することにより、視覚を通じて利用者の右脳を刺激し、痴呆症のリハビリテーションを行うようにしたことを特徴とする痴呆防止システム。

【請求項 2】 前記記憶装置にはゲームプログラムを記録するものであり、このゲームプログラムを前記対話プログラムの合間に実行するようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の痴呆防止システム。

【請求項 3】 前記記憶装置には痴呆症の程度を診断するための診断プログラムを記録するものであり、この診断プログラムの結果に基づいて前記質問及び返答を選択するようにしたことを特徴とする請求項 1 または 2 記載の痴呆防止システム。

【請求項 4】 前記質問及び返答は、前記記憶装置に個人情報として記録された過去の履歴に基づいて選択するようにしたことを特徴とする請求項 1、2 または 3 記載の痴呆防止システム。

【請求項 5】 前記対話プログラムは所定時間が経過したときに終了するものであり、この所定時間内に一定数の質問、回答、返答が行われなかった場合には、対話プログラムの実行時間を延長するようにしたことを特徴とする請求項 1、2、3 または 4 記載の痴呆防止システム。

【請求項 6】 前記記憶装置はインターネットに接続されたサーバ内に具えたものであることを特徴とする請求項 1、2、3、4 または 5 記載の痴呆防止システム。

【請求項 7】 前記記憶装置はコンピュータ内に具えたものであることを特徴とする請求項 1、2、3、4 または 5 記載の痴呆防止システム。

【請求項 8】 前記質問及び返答を音声によって利用者に示すことにより、聴覚を通じて利用者の右脳を刺激し、痴呆症のリハビリテーションを行うようにしたことを特徴とする請求項 1、2、3、4、5、6 または 7 記載の痴呆防止システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は痴呆症の予防・防止手段に関するものであって、特に利用者に対して主とし

て時間に対する認識を喚起させることのできる痴呆防止システムに係るものである。

【0002】

【発明の背景】 近年、日本の全人口に占める高齢者の割合が急増しており、これに伴い高齢化社会特有の様々な問題への対応が迫られている。このうち特に高齢者に発症することの多い痴呆症については、夜間せん妄想（夜になると興奮し言動がおかしくなる）、徘徊といった患者の奇異な言動はもとより、医療や保険の対象となる例が少ないこと等から日常生活の面倒をみる家族や老人保険施設等にとっても深刻な問題となっている。

【0003】 前記痴呆症は、脳神経細胞の減少・変成、脳血管障害、アルツハイマー病等が原因となるものであり、その症状には、健忘（物忘れ）、見当識障害（日時、場所、人がわからなくなる）、思考障害（理解力の低下、計算ができなくなる）、認知障害（物事を見分け判断する力が低下する、人違いをする）、更にこのような症状を自覚しない等といったものがある。これら痴呆症の症状は、投薬治療やリハビリテーションによって進行を遅らせたり、予防・改善が期待できるものであり、積極的に頭を使う等して脳に刺激を与えることが有効とされている。

【0004】 具体的には右脳刺激（音楽・絵画鑑賞、トランプ等のゲーム類、俳句・川柳、スポーツ、動物の飼育、ギャンブル予測、書道・華道・茶道、裁縫、園芸、旅行、男女交際、日曜大工等）が痴呆症の予防・改善を図るのに有効とされ、これにより前痴呆、軽度痴呆の 40～60% に改善効果が認められたとの報告もある。しかしながら老人ホームや老人保険施設で暮らす高齢者や、体の不自由な高齢者にとっては、上記右脳刺激のための各手段を行うことは思いのほか困難なものである。

【0005】 そこで近年広く普及しているパソコン・家庭用テレビゲーム機等のソフトとして、上記右脳刺激を行うための要素を盛り込んだものが登場してきている。具体的にはプレイヤーが主人公となって旅行に出るといったものや、記憶力、判断力、思考力、瞬発力、構成力等をそれぞれ刺激する簡単なミニゲームを収録したもの等が開発され、すでに一般に提供されているものもある。

【0006】 ところで痴呆症の症状のうち、特に見当識障害については、例えば 5 分前と 50 年前との識別ができないといったように時間的な感覚がなくなってしまう症状を含むものであり、単調な生活を送りがちな高齢者の多くに症状が現れる傾向にあるにもかかわらず、見当識障害の防止・改善を図ることを主たる目的としたソフトの開発・提供は成されていない。また痴呆の程度には個人差があり、患者各人毎に適切な右脳刺激手段を選定することも困難であった。

【0007】

【開発を試みた技術的課題】 本発明はこのような背景を

認識してなされたものであって、利用者毎の痴呆の程度に適切な右脳刺激手段を選択することができるとともに、特に見当識障害の予防・改善を図ることを目的とした新規な痴呆防止システムの開発を技術課題としたものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】すなわち請求項1記載の痴呆防止システムは、表示装置と、入力装置と、記憶装置と、処理装置とを具えて成るコンピュータを用い、前記表示装置上に表示された指示に従って利用者が入力を行うことにより痴呆症のリハビリテーションメニューをこなしてゆくシステムにおいて、前記記憶装置には、個人情報と、質問と、素材画像と、結果難型とを記憶するものであり、前記コンピュータは、質問を文字によって、あるいは文字及びこの質問の内容に関連する画像との組み合わせによって利用者に示し、一方、利用者は、この質問に対する回答を入力するものであり、前記コンピュータが、利用者の回答に対応した返答を、画像または画像と文字との組み合わせにより利用者に示すといった対話プログラムを実行することにより、視覚を通じて利用者の右脳を刺激し、痴呆症のリハビリテーションを行うようにしたことを特徴として成るものである。この発明によれば、コンピュータによって示された質問に対して行った回答に対応した返答が示されるため、利用者は、視覚を通じて右脳を刺激し、痴呆症のリハビリテーションを行うことができる。特に質問として過去の出来事や利用者の思い出を選択した場合には、返答としても過去の出来事や利用者の思い出を利用者に示すことにより、利用者に対して時間に対する認識を喚起させることができる。

【0009】また請求項2記載の痴呆防止システムは、前記要件に加え、前記記憶装置にはゲームプログラムを記録するものであり、このゲームプログラムを前記対話プログラムの合間に行うようにしたことを特徴として成るものである。この発明によれば、コンピュータの操作に不慣れな高齢者であっても、飽きることなくリハビリテーションメニューをこなすことができる。

【0010】更にまた請求項3記載の痴呆防止システムは、前記要件に加え、前記記憶装置には痴呆症の程度を診断するための診断プログラムを記録するものであり、この診断プログラムの結果に基づいて前記質問及び返答を選択するようにしたことを特徴として成るものである。この発明によれば、利用者毎の痴呆の程度に応じて適切な質問及び返答を選択することができるため、痴呆症の予防・改善を効果的に行うことができる。

【0011】更にまた請求項4記載の痴呆防止システムは、前記要件に加え、前記質問及び返答は、前記記憶装置に個人情報として記録された過去の履歴に基づいて選択するようにしたことを特徴として成るものである。この発明によれば、利用者に対して過去に示した質問を重

複して示すことを回避できるため、利用者は飽きることなくリハビリテーションメニューをこなすことができる。

【0012】更にまた請求項5記載の痴呆防止システムは、前記要件に加え、前記対話プログラムは所定時間が経過したときに終了するものであり、この所定時間内に一定数の質問、回答、返答が行われなかった場合には、対話プログラムの実行時間を延長するようにしたことを特徴として成るものである。この発明によれば、質問に対して回答を行う速度が遅い利用者であっても、一定数の画像見ることができ、楽しみながらリハビリテーションメニューをこなすことができる。

【0013】更にまた請求項6記載の痴呆防止システムは、前記要件に加え、前記記憶装置はインターネットに接続されたサーバ内に具えたものであることを特徴として成るものである。この発明によれば、利用者は格別ソフトを用意することなく、手軽に且つ低コストでリハビリテーションメニューをこなすことができる。また一基のサーバで多数の利用者の個人情報を管理することができるため、低コストで運用することができる。

【0014】更にまた請求項7記載の痴呆防止システムは、前記請求項1、2、3、4または5記載の要件に加え、前記記憶装置はコンピュータ内に具えたものであることを特徴として成るものである。この発明によれば、利用者はインターネット接続のための通信費等を要することなく、リハビリテーションメニューをこなすことができる。

【0015】更にまた請求項8記載の痴呆防止システムは、前記要件に加え、前記質問及び返答を音声によって利用者に示すことにより、聴覚を通じて利用者の右脳を刺激し、痴呆症のリハビリテーションを行うようにしたことを特徴として成るものである。この発明によれば、視覚に加え聴覚を通じて利用者の右脳を刺激することができるため、痴呆症の予防・改善を効果的に行うことができる。そしてこれら各請求項記載の発明の構成を手段として前記課題の解決が図られる。

【0016】

【発明の実施の形態】以下本発明の痴呆防止システムSについて説明すると、このものは、表示装置2と、入力装置3と、記憶装置5とを具えて成るコンピュータ1を用い、利用者が前記表示装置2上に表示された指示に従って入力を行うことにより、痴呆症の予防・防止を図るリハビリテーションメニューをこなしてゆくためのシステムである。なおこの実施の形態で示す痴呆防止システムSは、前記コンピュータ1を利用者の居所（自宅、病院、老人保険施設）等に配するとともに、このコンピュータ1をインターネット10を通じてシステム運営者が管理するサーバ11と接続する形態を採るものである。

【0017】前記コンピュータ1は、一例として市販の

デスクトップ型パソコンを適用するものであり、このものは本体1Aと、表示装置2たるカラー表示のできる市販のディスプレイ（CRT、液晶等）と、入力装置3たるキーボード30、マウス31及びマイク32と、更に左右一対のスピーカ6とを具えて成る。前記本体1A内には処理装置たるCPU等を内蔵するものであり、更に記憶装置5たるHDDと、メディアドライブ7たるFD、CDROM等のドライブ装置と、通信デバイス8たるモデム、TA、ルータ等とがビルトインされる。もちろんこれら装置は別途外付けするようにしてもよい。なおコンピュータ1としてノート型パソコンを用いることももちろん可能であり、この場合には、前記表示装置2、入力装置3、記憶装置5、スピーカ6、メディアドライブ7及び通信デバイス8は、適宜のケースに一体的に内蔵される。

【0018】そして前記コンピュータ1を、インターネット10を通じてシステム運営者が管理するサーバ11と接続するものであり、コンピュータ1及びサーバ11はそれぞれインターネットサービスプロバイダ12、13を介してインターネット10に接続される。

【0019】そして記憶装置である前記サーバ11には、個人情報と、質問と、素材画像と、結果雛型とゲームプログラムとをそれぞれ記憶させてデータベースを構築するものである。前記個人情報としては、利用者の氏名、性別、年齢、生年月日、出身地並びに本痴呆防止システムSの過去の利用履歴（利用回数、利用日時、すでに示された質問）、痴呆の度合い等が該当する。

【0020】また前記質問としては、「〇〇さん、下の写真の中ではどこに行きたいですか?」、「出身地はどこですか?」、「小学校の修学旅行はどこに行きましたか?」、「新婚旅行はどこに行きましたか?」、「下の写真の中であなたが高校時代にあった出来事はどれですか?」等の文字データが該当する。更にこれら質問を読み上げた音声データとして記録するようにしてもよい。

【0021】更にまた前記素材画像としては、前記質問に対応した画像並びに後述する返答に対応した画像が記録されるものである。一例として、富士山、琵琶湖、清水寺、自由の女神像、ピサの斜塔、凱旋門等、都道府県や、都市、国を象徴するような観光名所の写真、イラスト等や、東京オリンピック、大阪万博、昭和天皇崩御等、多くの人の記憶に残っている出来事の写真、イラスト等が該当する。更にこれら画像の説明文の文字データや、この文字データをを読み上げた音声データを記録するようにしてもよい。

【0022】更にまた前記結果雛型は、利用者による回答に対する返答を、画像または画像と文字との組み合わせにより表示装置2に示すためのツールであって、一例としてブラウザ上で所望の位置、大きさに画像を張り付けるとともに、文字の表示を行うように、HTMLによって記述されたものである。

【0023】更にまた前記ゲームプログラムは、短時間で行うことのできる簡単なゲームであって、一例としてジャンケンゲーム、もぐらたたき、神経衰弱等が複数記録される。本発明の痴呆防止システムSは一例として上述したように構成されるものであり、以下このシステムを用いた利用者によるリハビリテーションメニューの実行態様について、図3に示すフローチャートに従って説明する。

【0024】〔本人確認〕まず利用者はコンピュータ1を操作して適宜サーバ11にアクセスするとともに、キーボード30の操作やバーコードを印刷したIDカードを用いる等してパスワードを入力するものであり、このパスワードに基づいて本人確認が行われる（ステップS1～S3）。もちろん初めての利用の際には、パスワードは発行されていないため、適宜のウィザードに従って登録、パスワードの発行等を行うようにする。

【0025】〔診断プログラムの実行〕そして図3のフローチャートでは省略するが、初めての利用の際あるいは定期的に前記サーバ11に記録された痴呆症の程度を診断するための診断プログラムを実行して、その結果を個人情報に記録するようにする。因みに前記診断プログラムとしては、かなひろいテストや、長谷川式痴呆スケールをコンピュータ1上で実行するようにしたもの等が挙げられる。

【0026】〔トップページ〕続いて表示装置2にはブラウザ上で図4（a）に示すようなトップページが表示される（ステップS4）。このトップページは、現在の日時が表示されるものであり、更に背景としてその季節に合わせた画像を表示した場合には、使用者が時間及び季節の認識を行うことができる。またこのトップページには、一連の対話プログラムを実行するためのスタートボタンが張り付けられており、一例として「NEXT」の文字として表示されている。そして利用者がカーソルを「NEXT」の文字に合わせてクリックすることにより、次のステップへと進行する（ステップS5）。

【0027】〔履歴照会と質問の選択〕ここで利用者固有の利用履歴を照会するものであり、サーバ11内に蓄積された「過去の利用回数」、「利用日時」、「すでに示された質問」、「利用者の痴呆の程度」等の情報に基づいて質問が選択される。つまり利用者の痴呆の程度に応じたレベルの質問を選択するようにし、更に最近選択した質問を除外するようにして、利用者が興味を持って回答できるような質問を選択するようにするものである（ステップS6～S7）。

【0028】〔質問〕そして次のステップS8で表示装置2にはブラウザ上で図4（b）に示すような質問ページが表示される。この質問ページは前のステップS7で選択された質問を一例として画面の上部に表示するものであり、この実施の形態では、質問である「おじいちゃん、おばあちゃん行ってみたいところはどこかなあ?」

を文字表示するとともに、その下部に選択肢として観光名所の画像を四つ表示するようにした。なお質問についてはスピーカ6により音声として出力するようにしてもよい。

【0029】〔回答〕前記質問ページで示された四つの画像には、それぞれ次のステップS10で示される返答ページへのリンクが貼られており、利用者はカーソルを「行ってみたい所」の画像に合わせてクリックすることにより質問に対する回答を一例として選択的に行うものである(S9)。なおこの回答は、マイク32を用いて

音声入力するようにしてもよい。

【0030】〔返答〕このようにして回答が行われると、この回答に対応した返答が画像または画像と文字との組み合わせにより表示装置2にブラウザ上で表示されるものである(S10)。この実施の形態では一例として、図4(c)に示すように前記質問画像として示された観光名所の詳細な写真複数を難型に貼り付けるようにした。そしてこのような一連の質問、回答、返答といった対話形式のプログラム(ステップS7~S10)が実行される流れの中で、利用者は表示装置2に映し出された画像を見ることにより視覚を通じて右脳が刺激され、痴呆症のリハビリテーションを行うことができるものである。

【0031】〔履歴更新〕次いでステップS11において利用履歴を更新するものであり、サーバ11内に蓄積された「すでに示された質問」のデータを書き換える(ステップS11)。

【0032】〔操作時間の確認とゲームプログラムの実行〕ここで一連の質問、回答、返答といった対話プログラム(ステップS7~S10)が長く続くと利用者は飽きてきてしまうため、例えば対話プログラムが10分間続いたら息抜きのためにゲームプログラムを実行して遊んでもらい、その後対話プログラムを再開するといった構成を採るものである。このためステップS12において対話プログラムの継続時間をチェックするものであり、所定時間を超えていた場合には、ステップS20に進んでゲームプログラムが実行される。なおこの際、利用者が所望のゲームプログラムを選択して実行できるようにしたり、対話プログラムのときと同様に履歴照会を行って、同じゲームプログラムが連続しないようにすることもできる。そしてゲームプログラムが終了したら再びステップS6に戻って対話プログラムを再開する。

【0033】〔所定回数の確認と所定時間の確認〕前記ステップS12において対話プログラムの継続時間が所定時間を超えていなかった場合には、ステップS13に進んで一定数の質問、回答、返答が行われたかどうかをチェックするものであり、すでに所定数の質問、回答、返答が行われていた場合には適宜表示装置2に終了画面を表示するなどして、リハビリテーションメニューを終了する。

【0034】一方、ステップS13において所定数の質問、回答、返答が行われていなかった場合にはステップ14に進んでスタート時からの経過時間をチェックするものである。ここで所定時間を超えていた場合には、利用者はそろそろ飽きてくる頃なので、適宜表示装置2に終了画面を表示するなどして、リハビリテーションメニューを終了する。一方、ステップ14において所定時間が超えていなかった場合には、ここでリハビリテーションメニューを終了してしまうと、利用者にとってはもの足りなくつまらないものになってしまうため、ステップS6に戻って対話プログラムを再開するものである。やがてステップS13またはステップS14において終了条件が満たされた時点でリハビリテーションメニューが終了する。

【0035】

【他の実施の形態】本発明は上述した実施の形態を基本となる実施の形態とするものであるが、本発明の技術的思想に基づいて以下に示すような実施の形態を採ることもできる。まず上記基本となる実施の形態で示した痴呆防止システムSは、記憶装置5をインターネット10に接続されたサーバ11内に具えたネットワーク接続型のシステムとして構成したシステムであったが、前記記憶装置5をコンピュータ1内に具えたHDD等としたスタンドアロン型のシステムとして構成することもできる。このようなスタンドアロン型の痴呆防止システムSの場合、利用者はインターネット接続のための通信費等を要することなく、リハビリテーションメニューをこなすことができる。

【0036】また基本となる実施の形態では、コンピュータ1として市販のデスクトップ型パソコンを適用したが、近時高性能化が著しい家庭用ゲーム機を用いることも可能であり、この場合、表示装置2としてはテレビ受像機が用いられる。もちろんこの場合でも、痴呆防止システムSは、ネットワーク接続型またはスタンドアロン型のいずれの形態をも採ることができる。

【0037】また基本となる実施の形態では、入力装置3としてキーボード30及びマウス31を用いたが、高齢者にとってこれら入力装置3は必ずしも扱いやすいものではないため、表示装置2たるディスプレイをタッチパネル式のものにして入力装置3の機能を持たせるようにしてもよい。また入力ボタンを大きくした専用の入力装置を製作してこれを用いるようにしてもよい。

【0038】また前記記憶装置5には、個人年表作成プログラムを記録するようにしてもよい。この個人年表作成プログラムとは、例えば利用者の生い立ち、経歴を適宜のウィザードに従って入力してゆくことにより、個人的な出来事を時系列でデータベース化した個人年表を作成するプログラムである。具体的には一例として生年月日、生誕地の入力に始まり、終了した教育機関(小学校・中学校・高校・大学等)の名称や入学式・運動会・修

学旅行・卒業式等の行事、職歴、結婚式、新婚旅行、子供の誕生等の出来事を順次入力してゆくものである。また同時に実際に利用者が保有している写真を画像データとして取り込むようにしてもよい。この場合、写真と出来事との関連付けは自動的に行われるものとする。もちろんこのような個人年表の作成は、利用者自信が行ってもよいし、利用者の近親者等が行うようにしてもよい。この個人年表作成プログラムを採用した場合には、利用者自信の過去の出来事や思い出について質問することができ、更に返答としても利用者自信の過去の出来事や思い出を示すことが可能となり、利用者に対して時間に対する認識を効果的に喚起させることができる。

【0039】更にまた前記憶装置5には、スライドショウプログラムを記録するようにしてもよい。このスライドショウプログラムとは、例えば利用者の生い立ち、経歴等に従って、画像を随時映し出してゆくプログラムである。このスライドショウプログラムを採用した場合には、過去の出来事や思い出に関連する映像を、利用者に対して時間を追って連続的に示すことができるため、利用者に対して時間に対する認識を効果的に喚起させることができる。

【0040】

【発明の効果】本発明によれば、利用者毎の痴呆の程度に適切な右脳刺激手段を選択することができるとともに、特に見当識障害の予防・改善を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の痴呆防止システムを示すブロック図である。

【図2】コンピュータを示す斜視図である。

【図3】痴呆防止システムを用いたリハビリテーションメニューの流れを示すフローチャートである。

【図4】表示装置に示される画面を示す模識図である。

【符号の説明】

1 コンピュータ

1A 本体

2 表示装置

3 入力装置

30 キーボード

31 マウス

32 マイク

5 記憶装置

6 スピーカ

7 メディアドライブ

8 通信デバイス

10 インターネット

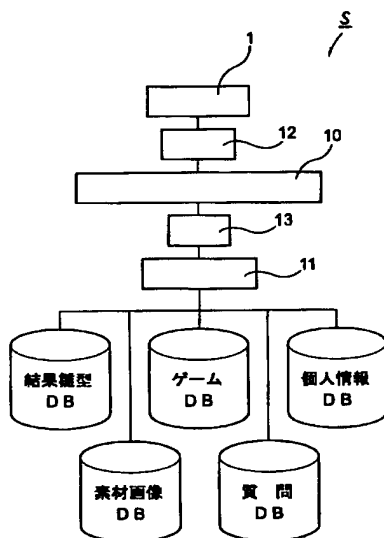
11 サーバ

12 インターネットサービスプロバイダ

13 インターネットサービスプロバイダ

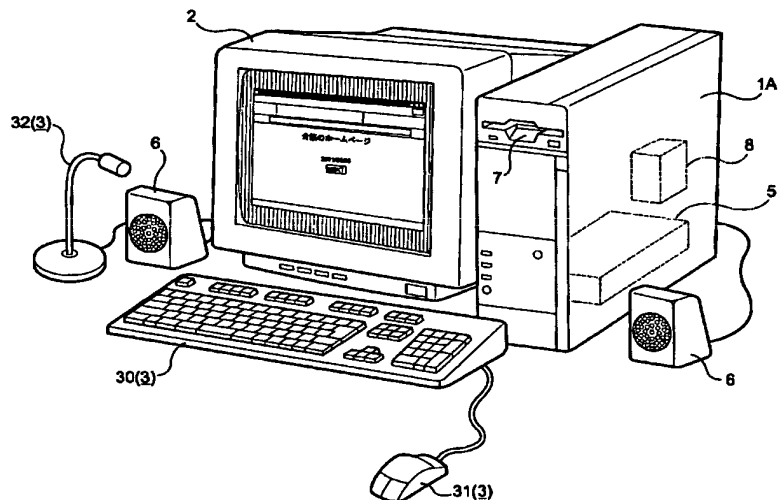
S 痴呆防止システム

【図1】

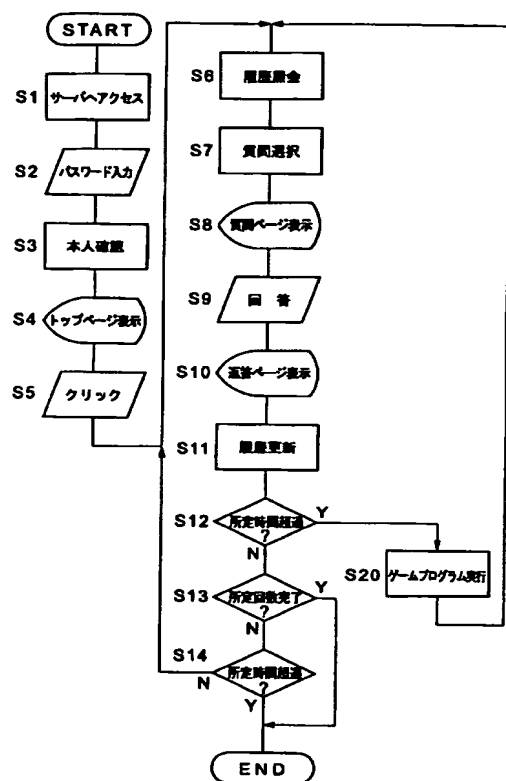


1 コンピュータ
10 インターネット
11 サーバ
S 痴呆防止システム

【図2】

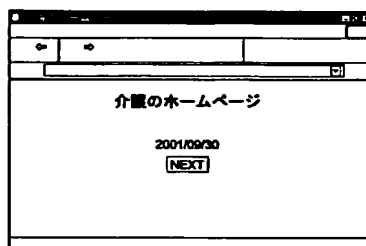


【図3】

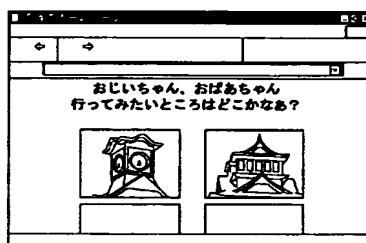


【図4】

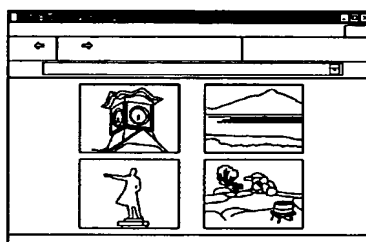
(a)



(b)



(c)



フロントページの続き

(72)発明者 周藤 安造
東京都江戸川区西葛西 6-28-20-1106

(72)発明者 沖 眞
東京都品川区旗の台 6-15-16

F ターム(参考) 2C028 AA11 AA12 BA01 BA02 BB04
BB06 BC01 BD01 CA06 CA11
CA13
5B050 AA02 BA06 BA16 CA07 EA20
FA02 FA13

THIS PAGE BLANK (USPTO)